



しも だ かげ き
志茂田景樹さん

小説家、絵本作家、タレント。
『黄色い牙』で直木賞を受賞。15年前から
絵本の読み聞かせを始め、教育講演も合わ
せると、1年に100回程行っている。

<http://www.kageki.jp/> で志茂田さんの読み聞かせが
視聴できます。

作
家

子どもに生きていく力を

KIDS!!!

親子で

読んでみよう

ハローワーク



中学生に読んでほしいものは『蟹工船』『津軽』、石川淳『紫苑物語』など。
「推薦本だけでなく、自分で探してある努力も大切」と。

想像と創造の合間に 読者の顔を

今回のテーマは作家です。港区立六本木中学校2年生3名が、麻布地区に事務所を
構える志茂田景樹さんにお話を伺いました。

◎小説家としてのスタートは？

昔は文学青年や作家志望が大勢いました。
私は職業を転々とし、年齢のわりに人生経験
が豊富だったので、実体験をもとに小説を書
けると思いました。28歳の時、初めて書いた
小説を新人賞に応募したら、二次選考を通過
したのですが、『やっこ探偵』で小説現代新
人賞を受賞するまで7年かかりました。これ
でようやく執筆で生計を立てられるようにな
りました。

◎本を1冊書き上げるには？

頭の中にいくつもの引き出しを作り、それ
ぞれに思いついた題材を入れ、資料やデー
タを読み込んでストーリーを発酵させます。こ
の助走期間は何年にも及ぶこともあります
が、一旦書き始めると、長編小説でも4ヶ
月程で仕上げます。

◎小説の題材はどこから？

物事を注意深く観察していれば、題材はい
くらでもあります。時代小説の場合、歴史
的資料を読むと、疑問が沢山湧いてきます。
隠された事実があるのでは、と自分で謎を
作り、その謎解きを書き上げていきます。

◎作家として心がけていることは？

数ある題材や材料をどう咀嚼して自分の
ものにするか、というのが一番大切です。
独りよがりな創作に走らず、読者が感動し
楽しんでくれるかを、常に意識しています。

◎服装や髪がカラフルなのはなぜ？

人間は真白な心で生まれてきても、知恵
や知識を身につけると、嫉妬や虚栄、傲慢
など要らない札を心に貼り付けてしまいが
ちです。そんな心が重くなった自分を解放
したいと思い、それが服装に表れたのです。
周りを気にせず、着たい物を着て、髪も
カラフルな方が心地よいのです。

絵本には自ら絵を描くことも。
小説、随筆、一般書、歴史小説など執筆した
書籍は数百冊。筆が早い作家の一人。



私達も『キリンがくる日』を読んで頂きました。